

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800034		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん梶賀 ユニット1階		
所在地	角田市梶賀字西126-1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族部屋があり(夫婦・親子兄弟)一緒に生活することができます。 家族様宿泊できます。 看護師がいるので日々の健康観るができ、安心して生活(相談)できます。 毎日、入浴できます。 笑い声が聞かれる明るく楽しいホームです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は角田市内中心部、国道349号線沿いの住宅地に位置し、近くにはファミリーレストランや商業施設が多い。母体法人は、宮城・山形・福島においてグループホームや小規模多機能型居宅介護、サービス付高齢者住宅などを運営している。法人理念「自由を尊重する・家族の絆を大切に」を毎日ミーティングで唱和しケアに活かしている。日頃から区長など、地域住民と細目に交流を図る取り組みにより、事業所や利用者についての理解があり、応援してもらえる関係が出来ている。事業所内の各居室にトイレがあり、利用者にとってプライバシーが確保しやすく安心感に繋がっている。職員には、希望休や緊急時に柔軟に対応するなど、働きやすい職場環境づくりを目指している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん(梶賀)）「1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を全員で話し合い、理解している。 日々のケアにも理念が生かされている。	法人理念を毎日ミーティング時に唱和している。職員は管理者から職員採用時にオリエンテーションで理念について学んでいる。理念「自由を尊重する・家族の絆を大切にする」に沿って利用者一人ひとりが、趣味を楽しむなど思いのままに過ごせるよう支援に努めている。また、家族部屋を用意し家族の絆を大事に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流まではいかないが、朝夕の挨拶、また散歩時には話をしている。	コロナ禍のため地域との交流が困難な状況である。町内会には加入していないが、以前は盆踊りなど地域行事に参加し地域住民と交流を深めていた。コロナ禍でも、散歩時に朝顔の種をもらうなど、顔なじみの関係が出来ている。地域情報は運営推進会議メンバーである区長等から聞いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人達の生活の場であることは理解されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、中止にしている。	メンバーは区長、家族(全家族に案内)、民生委員、市職員、地域包括職員で運営している。コロナ禍で現在は開催を見送っており、資料の配布等も行っていない状況である。	メンバーへ運営推進会議資料を送付したり、テーマを決めて意見の聴取を行うなど、代替方法を工夫し、サービスの向上に向けた活動を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	角田市独自の助成金のお話をし負担にならないようにしている。	角田市独自の助成金制度(月4.5万の家賃補助)があり、利用している人もいる。入居状況を報告したり、ケア会議や研修会への参加等、また、ボランティアを紹介してもらう等、都度連絡を取り合っている。外部評価結果を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は出来るだけしないように努めている。 ドアにはブザーをつけ対応し、夕方には、見守り重視にしている。 身体拘束時には書面を交わす。当施設では身体拘束廃止に向けて、身体拘束委員会を設置している。	委員会のメンバーは管理者、教育委員(研修・人材育成担当)、計画作成担当で構成されている。採用時の他、研修会を開催し身体拘束禁止等について理解を深めている。参加出来なかった職員には報告書を回覧し情報共有している。玄関は施錠していないが、職員体制が薄い時間帯は施錠することもある。外出要求が強い人には、代替えとなる事を工夫し、対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加している。 事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者が日頃から職員一人ひとりに声掛けし、抱えている悩みや思い、相談などを良く聞くよう努めている。内部研修の他、外部研修に参加し内容について情報共有している。虐待防止に努めており、虐待発生時の対応は検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人職員もおおり、成年後見制度について理解出来ていない職員もいる。 成年貢献制度を、利用されていた利用者がいたので説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み・契約時に説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話を聞くなど、意見・要望を表せる機会がある。それらに応じられるように取り組みを行う。	家族からは電話や面会時に意見・要望を聞いている。普段から言いやすい環境作りに努め、出された意見・要望が反映できるよう努めている。外出要望については、コロナ禍で、対応できない状況である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に意見を聞いている。 年間行事の他にも職員からの要望でその時期にあった行事をしている。	毎月のミーティング時等に、運営に関して意見を出すことができる。希望休は月3日取得でき、シフトの変更等は柔軟に対応している。 管理者は日常的に職員とコミュニケーションを図り、意志疎通が出来るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場と家庭を無理なく両立できるよう勤務表を作成している。 勤続祝い金があり、各自の向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会が中心になり毎月研修をしている。外部の研修にも参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、角田市・丸森町合同介護サービス事業所連絡会に参加していたがコロナの影響で中止になっている。	角田市・丸森町合同介護サービス事業連絡会はコロナ禍で中止しており、Web会議等の代替も開催されていない。個別に電話で他のグループホームと近況を確認し合ったり、情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を傾聴するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学に来られた時から要望を聞き良い環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の中で必要な支援は何かを見極める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを尊重し合い、寄り添う生活をしていく。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念の「家族の絆」があるように本人・家族を大切にしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等が面会に来られた時には、ゆっくり話ができるように対応し、支援に努めている。 居室に写真や馴染みのある物を設置して居室環境に努めている。	入居以前から利用している理・美容に家族と行く人もいる。感染予防をしながら法事に出席した利用者もいた。面会時には理念の一つでもある『家族との絆』が深められるよう、家族部屋の利用が出来るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入り、孤立しないような支援に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれた方の情報を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長く、ここでみんなと生活していきたい。帰宅願望聞かれる利用者には話を聞き、納得して頂くように対応している。	常日頃より会話を通し、その時々で食べたい物などの希望や意向を利用者から聞いている。利用者のつぶやきなどを介護記録に記載し、思いや願いに寄り添えるよう職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、その利用者にあったことをしてもらおう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで過ごしてもらおう。役割をもって頂き、生き生きとした生活が出来るような支援に務めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を聞きながら作成している。ミーティング時にモニタリングの状態を聞き、ケアプランの変更の必要があれば変更している。	入居時に本人、家族の意向を確認し介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回担当職員を中心に行い、必要があれば介護計画を見直している。介護計画は職員会議で検討している。来訪時に家族に説明し同意を得ている。郵送して同意を得ることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じサービスの内容を変える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さんを利用し、歩行できる利用者は、訪問し、車いすの利用者には来てもらっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医での受診。 月2回の訪問診療(2グループに分かれているので4回来られる)	協力医療機関がかかりつけ医の人は月2回訪問診療を受けている。その他のかかりつけ医を受診する場合は、家族付き添いを基本とし、その際はメモやノートなど活用し情報を提供し連携を図れるように努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談・報告し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談員と情報の交換・相談を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書によって説明している。 重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から話し合う。看取りはしない。	入居時に、事業所で出来ることを説明している。必要なサービスの提供が困難になった場合は、適切な他の施設や病院と連携し紹介する事を説明している。重度化した場合や終末期については早い段階から話し合っているが、地域の状況で事業所内での看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練、定期的に行う。(講習会に参加)		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルをもとに地域の方々と避難訓練(夜間想定含む)年2回実施。 火災報知器等の定期点検、非常用飲料・備品備蓄の点検。	火災、風水害、地震対応、感染症防止マニュアルをもとに実践に向け訓練している。避難訓練は6月と12月に実施しているほか、火災報知器等の定期点検、非常用飲料・備品備蓄の点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人には「さん」付けで呼ぶ。	排泄介助はさりげなく、必要に応じ居室に誘導するなど、プライバシーに配慮したケアに努めている。居室に入室する際は必ずノックして確認している。今後、新人職員向けに、接遇やプライバシー保護の研修を企画(2022年1月予定)している。名前は原則として「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる声かけを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に確認しながら対応する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、入浴時にはどれが良いか選んでもらう。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・後片付け等出来る利用者にはお手伝いしてもらう。 利用者と職員同じテーブルにて同じ物を食し、見守り行いながら楽しく食事する。	食器洗いやテーブル拭きなど出来る役割を担い一緒に行っている。みんなで食卓を囲み家庭的な雰囲気作りに努めている。献立は利用者の好物など反映し、事業所独自で職員が1週間毎輪番で作成している。栄養士によるチェックは行っていないが、栄養バランスを考慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を個人ケースに記入し、把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ行い行っている。 介助の必要な利用者は出来るところまでしてもらい、出来ないところは介助行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握している。紙パンツから布パンツに変更。排泄パターンを知り、排泄に失敗しないように声がけをしてトイレに行ってもらっている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。把握した排泄パターンや状態に合わせて誘導などを行い、自室のトイレでゆっくり、安心して排泄が出来るように支援している。出来るだけ布パンツに移行出来るよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く、繊維の多い物を食す。お茶の時間には足踏み体操を行っている。看護師により下剤服用管理を行う。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者ごとに入浴の回数が異なる。年齢・疾患によって異なる。毎日入浴されている利用者もいる。希望時間に応じられるようにしている。	浴室は各階にある。着替等の準備は本人や職員と一緒に週2回から3回午前中に入浴支援している。清潔保持の為、状況や状態に合わせて毎日入浴する人もいる。湯は都度交換し、希望により入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足にむくみがある場合には、日中居室で休むように声がけを行う。就寝時も本人に聞きながら就寝の介助を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を確認しながら行っている。異変等がある時は看護師に相談し、その都度対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり・後片付・編み物・カラオケ・読書、役割、趣味を楽しんでいる。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事を立てている。暑くなる前、寒くなる前には施設の周りを散歩している。	コロナ禍以前は、お花見をしたり、近くで外食を楽しんだりしていた。現在は、事業所内でお花見、誕生会、敬老会等を催している。気分転換に玄関先や事業所の周りを散歩し草花に水やり等を行っている。	コロナ禍により外出の機会を制限している。家族からの要望も踏まえ、近場での散歩やドライブなど、外出支援について工夫し実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金・貴重品は持参していない。 必要な物は随時、家族に電話し持参してもらう。 来られない時は会社で立替を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望時には、こちらからかける。 手紙が届いた時にはすぐに手渡ししている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・食堂等季節感を感じられるような物を取り入れている。 換気を行い、温度・湿度の調整を行う。	温・湿度の管理は職員が担当し行っている。 居室や共用スペースには、四季折々季節を感じられるような飾りつけをするなど、工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで皆さんとお話したり、居室にて気の合った利用者さんと楽しくお話をしたり編み物をしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたカレンダーや時計を持ってきている。家族も宿泊できる。	家族の来訪時に宿泊ができるように家族部屋を設けている。居室の出入口に名前を表示し、室内用のトイレにも分かりやすいよう表示してある。利用者同士、お互いに部屋を訪ね自由に交流している。居室には趣味のPATCHワークや写真などが飾られ、居心地の良い環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に確認、声掛けを行いながら自分で出来ることはしてもらう。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800034		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん梶賀 ユニット2階		
所在地	角田市梶賀字西126-1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族部屋があり(夫婦・親子・兄弟)一緒に瀬克することができます。 家族様宿泊できます。 看護師がいるので、日々の健康管理ができ、安心して生活(相談)できます。 毎日、入浴できます。笑い声が聞かれる明るく楽しいホームです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は角田市内中心部、国道349号線沿いの住宅地に位置し、近くにはファミリーレストランや商業施設が多い。母体法人は、宮城・山形・福島においてグループホームや小規模多機能型居宅介護、サービス付高齢者住宅などを運営している。法人理念「自由を尊重する・家族の絆を大切に」を毎日ミーティングで唱和しケアに活かしている。日頃から区長など、地域住民と細目に交流を図る取り組みにより、事業所や利用者についての理解があり、応援してもらえる関係が出来ている。事業所内の各居室にトイレがあり、利用者にとってプライバシーが確保しやすく安心感に繋がっている。職員には、希望休や緊急時に柔軟に対応するなど、働きやすい職場環境づくりを目指している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん(梶賀)）「2階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を全員で話し合い、理解している。	法人理念を毎日ミーティング時に唱和している。職員は管理者から職員採用時にオリエンテーションで理念について学んでいる。理念「自由を尊重する・家族の絆を大切にする」に沿って利用者一人ひとりが、趣味を楽しむなど思いのままに過ごせるよう支援に努めている。また、家族部屋を用意し家族の絆を大事に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流まではいかないが、朝夕の挨拶、また散歩時には話をしている。	コロナ禍のため地域との交流が困難な状況である。町内会には加入していないが、以前は盆踊りなど地域行事に参加し地域住民と交流を深めていた。コロナ禍でも、散歩時に朝顔の種をもらうなど、顔なじみの関係が出来ている。地域情報は運営推進会議メンバーである区長等から聞いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人達の生活の場であることは理解されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、中止にしている。	メンバーは区長、家族(全家族に案内)、民生委員、市職員、地域包括職員で運営している。コロナ禍で現在は開催を見送っており、資料の配布等も行っていない状況である。	メンバーへ運営推進会議資料を送付したり、テーマを決めて意見の聴取を行うなど、代替方法を工夫し、サービスの向上に向けた活動を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	角田市独自の助成金の話をを行い負担にならないようにしている。	角田市独自の助成金制度(月4.5万の家賃補助)があり、利用している人もいる。入居状況を報告したり、ケア会議や研修会への参加等、また、ボランティアを紹介してもらう等、都度連絡を取り合っている。外部評価結果を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は出来るだけしないように努めている。ドアはブザーをつけ対応し、夕方には、見守り重視にしている。身体拘束自には書面を交わす。当施設では身体拘束廃止に向けて、身体拘束委員会を設置している。	委員会のメンバーは管理者、教育委員(研修・人材育成担当)、計画作成担当で構成されている。採用時の他、研修会を開催し身体拘束禁止等について理解を深めている。参加出来なかった職員には報告書を回覧し情報共有している。玄関は施錠していないが、職員体制が薄い時間帯は施錠することもある。外出要求が強い人には、代替えとなる事を工夫し、対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加している。事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者が日頃から職員一人ひとりに声掛けし、抱えている悩みや思い、相談などを良く聞くよう努めている。内部研修の他、外部研修に参加し内容について情報共有している。虐待防止に努めており、虐待発生時の対応は検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人職員もおおり、成年後見制度について理解出来ていない職員もいる。資料等に目を通してはもらっている。成年後見制度を利用されていた利用者がいたので説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み・契約時に説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話を聞くなど、意見・要望を表せる機会がある。それらに応じられるように取り組みを行う。	家族からは電話や面会時に意見・要望を聞いている。普段から言いやすい環境作りに努め、出された意見・要望が反映できるよう努めている。外出要望については、コロナ禍で、対応できない状況である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に意見を聞いている。年間行事の他にも職員からの要望でその時期にあった行事をしている。	毎月のミーティング時等に、運営に関して意見を出すことができる。希望休は月3日取得でき、シフトの変更等は柔軟に対応している。管理者は日常的に職員とコミュニケーションを図り、意志疎通が出来るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場と家庭を無理なく両立できるよう勤務表を作成している。勤続祝い金があり、各自の向上心をもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会が中心になり毎月研修をしている。外部の研修にも参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、角田市・丸森町合同介護サービス事業所連絡会に参観していたがコロナの影響で中止になっている。	角田市・丸森町合同介護サービス事業連絡会はコロナ禍で中止しており、Web会議等の代替も開催されていない。個別に電話で他のグループホームと近況を確認し合ったり、情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を傾聴するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに見学に来られた時から要望を聞き良い環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の中で必要な支援は何かを見極める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを尊重し合い、寄り添う生活をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念の「家族の絆」があるように本人・家族を大切にしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等が面会に来られた時には、ゆっくり話ができるように対応し、支援に努めている。 居室に写真や馴染みのある物を設置して居室環境に努めている。	入居以前から利用している理・美容に家族と行く人もいる。感染予防をしながら法事に出席した利用者もいた。面会時には理念の一つでもある『家族との絆』が深められるよう、家族部屋の利用が出来るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入り、孤立しないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設にいかれた方の情報を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長く、ここでみんなと生活していきたい。帰宅願望聞かれる利用者には話を聞き、納得して頂くように対応している。	常日頃より会話を通し、その時々で食べたい物などの希望や意向を利用者から聞いている。利用者のつぶやきなどを介護記録に記載し、思いや願いに寄り添えるよう職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、その利用者にあったことをしてもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで過ごしてもらう。役割をもって頂き、生き生きとした生活が出来るような支援に務めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を聞きながら作成している。 ミーティング時にモニタリングほ状態を聞き、ケアプランの変更の必要があれば変更している。	入居時に本人、家族の意向を確認し介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回担当職員を中心に行い、必要があれば介護計画を見直している。介護計画は職員会議で検討している。来訪時に家族に説明し同意を得ている。郵送して同意を得ることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じサービスの内容を変える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さんを利用し、歩行できる利用者は、訪問し、車いすの利用者には来てもらっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医での受診。 月2回の訪問診療(2グループに分かれているので4回えられる)	協力医療機関がかかりつけ医の人は月2回訪問診療を受けている。その他のかかりつけ医を受診する場合は、家族付き添いを基本とし、その際はメモやノートなど活用し情報を提供し連携を図れるように努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談・報告し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談員と情報の交換・相談を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書によって説明している。 重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から話し合う。看取りはしない。	入居時に、事業所で出来ることを説明している。必要なサービスの提供が困難になった場合は、適切な他の施設や病院と連携し紹介する事を説明している。重度化した場合や終末期については早い段階から話し合っているが、地域の状況で事業所内での看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練、定期的に行う。(講習会に参加)		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルをもとに地域の方々と避難訓練(夜間想定含む)年2回実施。 火災報知器等の定期点検、非常用飲料・備品備蓄の点検。	火災、風水害、地震対応、感染症防止マニュアルをもとに実践に向け訓練している。避難訓練は6月と12月に実施しているほか、火災報知器等の定期点検、非常用飲料・備品備蓄の点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人には「さん」付けで呼ぶ。	排泄介助はさりげなく、必要に応じ居室に誘導するなど、プライバシーに配慮したケアに努めている。居室に入室する際は必ずノックして確認している。今後、新人職員向けに、接遇やプライバシー保護の研修を企画(2022年1月予定)している。名前は原則として「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる声かけを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に確認しながら対応する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、入浴時にはどれが良いか選んでもらう。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・後片付け等出来る利用者には、お手伝いしてもらおう。利用者と職員同じテーブルにて同じ物を食し、見守り行いながら楽しく食事する。	食器洗いやテーブル拭きなど出来る役割を担い一緒に行っている。みんなで食卓を囲み家庭的な雰囲気作りに努めている。献立は利用者の好物など反映し、事業所独自で職員が1週間毎輪番で作成している。栄養士によるチェックは行っていないが、栄養バランスを考慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を個人ケースに記入し、把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け行い行っている。介助の必要な利用者は出来るところまでしてもらい、出来ないところは介助行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握している。紙パンツ～布パンツに変更。排泄パターンを知り、排泄に失敗しないように声がけをしてトイレに行ってもらっている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。把握した排泄パターンや状態に合わせて誘導などを行い、自室のトイレでゆっくり、安心して排泄が出来るように支援している。出来るだけ布パンツに移行出来るよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く、繊維の多い物を食す。お茶の時間には足踏み体操を行っている。看護師により下剤服用管理を行う。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者ごとに入浴の回数が異なる。年齢・疾患によって異なる。毎日入浴されている利用者もいる。希望時間に応じられるようにしている。	浴室は各階にある。着替等の準備は本人や職員と一緒に週2回から3回午前中に入浴支援している。清潔保持の為、状況や状態に合わせて毎日入浴する人もいる。湯は都度交換し、希望により入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足にむくみがある場合には、日中居室で休むように声がけを行う。就寝時にも本人に聞きながら就寝の介助を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を確認しながら行っている。異変等がある時は看護師に相談し、その都度対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり・後片付・編み物・カラオケ・読書 役割、趣味を楽しんでいる。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事を立てている。暑くなる前、寒くなる前には施設の周りを散歩している。	コロナ禍以前は、お花見をしたり、近くで外食を楽しんだりしていた。現在は、事業所内でお花見、誕生会、敬老会等を催している。気分転換に玄関先や事業所の周りを散歩し草花に水やり等を行っている。	コロナ禍により外出の機会を制限している。家族からの要望も踏まえ、近場での散歩やドライブなど、外出支援について工夫し実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金・貴重品は持参していない。 必要な物は随時、家族に電話し持参してもらう。来られない時は会社で立替を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望時にはこちらからかける。 手紙が届いた時には、すぐに手渡ししている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・食堂等季節感を感じられるような物を取り入れている。 換気を行い、温度・湿度の調整を行う。	温・湿度の管理は職員が担当し行っている。 居室や共用スペースには、四季折々季節を感じられるような飾りつけをするなど、工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで皆さんとお話ししたり、居室にて「気の合った利用者さんと楽しくお話をしたり編み物をしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたカレンダーや時計を持ってきている。家族も宿泊出来る。	家族の来訪時に宿泊ができるように家族部屋を設けている。居室の出入口に名前を表示し、室内用のトイレにも分かりやすいよう表示してある。利用者同士、お互いに部屋を訪ね自由に交流している。居室には趣味のパッチワークや写真などが飾られ、居心地の良い環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に確認、声がけを行いながら自分で出来ることはしてもらう。		